

第1回「志津見・尾原ダム事業費等監理委員会」 議事概要

日時：平成20年7月7日（月）10:00～12:00

場所：国土交通省斐伊川・神戸川総合開発工事事務所

○委員会の開催時期について

委員：第2回委員会が平成20年度冬開催となると、平成20年度の事業執行もかなり進捗した状態だと思われる。第2回委員会の審議内容に「平成20年度の事業執行について」とあるのは時期的にどうなのか。

事務局：第2回委員会を秋頃開催し、コスト縮減内容等について審議していただく予定です。第3回以降の委員会は年度初めに開催し、概算要求に向けての事業実施内容について審議していただく予定です。

○志津見ダム、尾原ダムの事業内容について

委員：コンクリート打設の進捗で、志津見ダム 71.1%、尾原ダム 23.7%と開きがあるのに、両ダムとも平成22年度に事業完成となっているのは何故か。

事務局：志津見ダムは平成20年度にコンクリート打設を完了し、平成21年度から試験湛水を開始する予定です。平成22年度はダム自体は完成していてコンクリート製造設備等の撤去を行う予定です。

尾原ダムは、平成21年度にコンクリート打設を完了し、平成22年度に試験湛水を実施する予定です。本来は、志津見ダムの工程が望ましいが、尾原ダムの場合は事業完了年度までに終わらせるためのギリギリの工程となっています。

委員長：コンクリート打設工法について説明してほしい。

事務局：志津見ダムは拡張レアー工法（スランプ3cm）で打設しています。

尾原ダムはEL199mまでをRCD工法で、EL199以上を拡張レアー工法（スランプ3cm）で打設する予定です。

委員：試験湛水について流量は十分か。また地すべり発生などの危険性はないか。

事務局：試験湛水については、平年並みの流量であれば十分であると考えています。志津見ダムの地すべりについては、事前に地形判読などにより、地すべり発生の危険性の有無を調査し対策をするように考えています。

尾原ダムの地すべりについては事前の調査で発生の危険性はありません。

委員：ダムの貯水容量等の数値について、一般にも解りやすくなるように表現に工夫を加え、この事業のメリットをアピールするように。

ダムを活かした観光という側面もアピールすれば、便益も大きくなり、一石二鳥にも三鳥にもなって付加価値が高まる。

事務局：将来のダムの利活用や周辺整備については地元の方々も交えて検討を行っているところです。

尾原ダムについては、ダム湖を利用したボート競技、付替道路を利用した自転車競技などが予定されています。

○志津見ダム、尾原ダムの事業費について

委員：水道事業者は建設費を負担する必要があるため、最終事業費を早く把握してほしい。

事務局：平成21年度夏の平成22年度概算要求時点で大枠は理解していただけると思います。

委員：コスト縮減の取り組みの中で、竹割り型構造物掘削工法はどこに採用したのか。

事務局：平田佐白線の北原大橋と尾崎山方線1号橋に採用しています。

委員：志津見ダムの全面越流方式は全国で初めてのケースか。

事務局：全面越流は苫田ダム等でも採用していますが、天端橋梁を省略したのは初めてのケースです。堤頂構造の簡素化が出来た背景として、ダム右岸側が山林保全制度を活用し付替道路が不要になったため、ダム天端を渡って対岸に行く必要が無くなったことがあげられます。

委員長：岩盤はどうか。岩盤の状況によってはコスト増につながる恐れがある。

事務局：志津見ダムは花崗岩が主体で岩盤は良質です。尾原ダムは花崗岩及び閃緑岩が主体ですが、ダム形状を見て分かるとおり左岸部に厚い強風化部があり、堤体を地山に追い込んだ形状となっています。

以上

○第1回委員会の様子

